令和7年度 第1回松戸市水道事業運営審議会 議事録

- ・ 日時 令和7年8月6日(水)午後2時00分から午後3時25分
- ・ 場所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- ・ 出席者 (1) 委員(6名)
大塚委員、後藤委員、土屋委員、麻木委員、元村委員、舟山委員
(2) 水道事業職員(11名)
加藤水道事業管理者、有賀参事監兼総務課長、染谷技監兼工務課長、
綿貫総務課専門監、川瀬工務課長補佐、宿谷総務課長補佐、
干場工務課主幹、広瀬総務課主幹、総務課職員3名

・ 議事

開会に先立ち、水道事業管理者より、あいさつがありました。

会議の公開等について、出席委員の了承を得て、傍聴者1名の許可と以後の受付後の傍聴を可能としました。

【議長】

「水道料金の改定について」を議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。

【事務局】

私の方から「今後の収支見通しについて」説明させていただきます。

はじめに、上段の収益的収支でございます。

令和6年度までが決算額、令和7年度が予算額、令和8年度以降が計画額となります。
令和7年度予算につきましては、報告事項のところで説明させていただく予定です。

黄色く色を付けた純利益のところをご覧ください。令和8年度以降は赤字に転じるこ
とが見込まれています。

その主な要因でございますが、収入の根幹をなす給水収益が年々減少傾向にある一

方、費用が増加傾向にあるためです。

純利益の下に「労務単価が上昇し続けていることから、委託料が増加」となっていますが、国の調査では13年連続で労務単価が上昇しているということです。矢印の先の、主な二つの委託料について説明させていただきます。浄水場運転管理業務委託については、土日、祝日、夜間も含め24時間体制で浄・配水場の運転管理業務を委託しています。また、料金徴収業務委託については、水道メーターの検針から上下水道料金の徴収までの業務を委託しています。どちらも多くの人手を使い業務を行っていることから、労務単価の上昇の影響を受け、5年ごとに契約を更新するたびに増加傾向となっています。

次に、エネルギー価格の高騰に伴い電気料金が値上がりし、水を送り出すための動力費が増加しました。現在は国の補助金により落ち着いていますが、今後どうなるかはわからない状況です。

最後に思川開発事業についてですが、現在栃木県において国が手掛ける最後のダム建設となる南摩ダムの完成が令和6年度から令和8年度に伸びました。これにより、完成後の令和9年度に受水費が増加することとなります。

このように、給水収益が年々減少傾向にある一方、費用が増加傾向にあるため、令和8年度以降、赤字に転じるものと見込んでおります。

令和9年度の上に矢印で水道事業新基本計画期間、令和9年度から令和18年度となっていますが、この10年間は次の水道事業新基本計画の計画期間となります。計画を策定するうえで、この計画期間中は黒字となるような計画としなければなりません。

次に、下段の資本的収支でございます。主に施設を整備していくための予算になります。

収入に対して支出の方が大きく、毎年度収支不足額が発生しますが、内部に蓄えられた現金を使って不足額を補てんします。補てん後の残高が補てん財源残高の欄となります。

す。

この補てん財源残高ですが、どのくらいあるべきなのか、その目安として、年間の給水収益相当額あるいは半年分の給水収益相当額とされています。

令和8年度からその目安を下回る見込みです。そこで、事業費の財源として令和8年度から企業債を借り入れる予定ですが、このままでは令和13年度以降に資金が底をつくような状況です。

このような状況においても、安定給水のためには必要な工事を引き続き行っていかなくてはなりません。基幹管路の耐震化に加え、幸田配水場の非常用発電機の設置や常盤平浄水場の配水池更新については、最優先で取り組んでいかなければならないと考えています。

この詳細につきまして、工務課長より説明させていただきます。

【事務局】

「水道施設の耐震化及び整備について」の資料により説明させていただきます。令和8年度から12年度の5年間で、重点的に取り組みたい事業として、基幹管路の耐震化、停電対策、配水池の耐震化、この3つがございます。

左側の1.「基幹管路の耐震化について」をご覧ください。初めに水道管路の状況から説明させていただきます。

(1)の布設状況ですが、水道管の総延長は約213kmございます。そのうち口径が大きいなど重要な管路の基幹管路が33kmで、口径の小さい配水管の支管管路は180kmございます。

(2)の老朽管の状況ですが、水道管路の法定耐用年数は40年とされ、市営水道の老朽管の割合は5.3%で、全国や県内の平均と比較して低く、古い水道管の割合は少ない状況です。

(3)の耐震化の状況ですが、市営水道の耐震適合管の割合は、全ての管路につきまし

では44.6%で、全国平均などを上廻っております。しかし、基幹管路は39.5%と、全国平均を下廻る状況です。

この様に、老朽管は少ないが、重要な管路である基幹管路の耐震化が進んでいない状況です。令和3年度より基幹管路の耐震化事業に着手しておりますが、令和8年度から12年度におきましては耐震化を加速しまして、全国平均を上廻る耐震適合率を確保したいと考えております。

次に、右側の2.「浄配水場施設の耐震化及び整備について」をご覧ください。

小金地区においては、幸田配水場に非常用発電施設を新設、常盤平地区においては、常盤平浄水場配水池の1池の耐震化を計画しております。

(1)停電対策といたしまして、幸田配水場に非常用発電施設を整備し、小金地区の停電対応力を現在の16.5時間から72時間に強化するものです。近年、台風や地震などにより長期の停電が発生しており、復旧までにかかった時間を考慮すると、3日分の電力確保が望ましいとされております。特に、小金地区におきましては現在、16.5時間と1日に満たない 状況のため、重要な施設整備となります。

次に、(2)の「常盤平浄水場の配水池を耐震化」につきまして、常盤平浄水場は、4つある配水池全てが耐震基準を満たしておらず、令和9年度には3つが法定耐用年数を超過します。配水池は各家庭などに送る水を貯めておく施設となります。地震などの災害時に、配水池が破損して断水が起きないように、耐震性のある配水池を整備し、災害時でも安定的な水の供給を行うため、必要な事業となります。

以上、施設整備の説明とさせていただきます。

【事務局】

ただ今工務課長の方から説明がありました、施設整備の計画を盛り込んだものが先ほどの「今後の収支見通しについて」で、反映させておりまして、これらの工事を最優先でやらせていただきたいと思います。

続きまして、「水道料金の改定について」の資料をご用意いただけますでしょうか。

1枚めくっていただいて、目次をご覧ください。

はじめに、水の使用実態の変化について、水需要は減少傾向にあります。

その現状について。2番目として、料金体系について、どのような料金体系があるのか。

3番目として、水道料金の比較について、市営水道と県営水道の比較や、近隣水道事業体との比較、千葉県内での比較について。そして最後に、水道料金改定のポイントについて説明させていただきます。

給水人口の推移についてでございます。小金地区は微増傾向にありますが、常盤平地区は横ばいに推移しており、両地区合計では微増傾向にあります。令和6年度末現在、小金地区60,078人、常盤平地区21,291人、合計で81,369人となっております。給水戸数につきましても、給水人口と同じような傾向にありまして、小金地区は微増傾向、常盤平地区は横ばいに推移しており、両地区合計では微増傾向にあります。令和6年度末現在、小金地区29,429戸、常盤平地区12,613戸、合計で42,042戸となっております。

給水人口と給水収益の推移についてでございます。給水人口につきましては先ほどご覧いただいた通り、横ばいから微増傾向となっております。一方、給水収益につきましては、右肩下がりに減少しており、料金改定を行った平成8年度から令和6年度までに約3億5千万円減少しました。この売上の減少が経営状況に大きく影響してきている訳でございます。

次に、水需要が減少してきた理由につきまして、これまで、少子高齢化の進展や、一般家庭における節水型機器の普及などが考えられるのではないかとということで、申し上げてきました。これらの水需要が減少してきた理由について、見ていきたいと思っております。

こちらは、平成15年度末現在と令和5年度末現在における給水区域内の年齢別人口をグラフにしたものです。全体的に右側に移動してきており、両地区とも少子高齢化が

進んでいるということが分かります。

こちらは、給水区域内年齢階層別人口割合の推移になります。0歳から14歳までを年少、15歳から64歳までを生産年齢、65歳以上を高齢者と、3つの階層に区分いたしまして、その推移をグラフにしたものです。左が小金地区、右が常盤平両地区で、上段が人口、下段が人口割合になります。両地区とも、平成元年度と令和5年度を比べると、少子高齢化が進んでいることが分かります。

子育て世代と比べ、高齢者世帯の方が水をあまり使わない傾向にあることから水需要が減少してきている要因の一つと考えております。

次に、一般家庭における節水型機器の普及について、見ていきたいと思いますが、その前に家庭で使う水の割合について、東京都水道局が令和3年度に調査した資料によりますと、最も多いのがお風呂で43%、2番目がトイレで20%、3番目が洗濯で16%、4番目が台所で15%、その他で6%という結果となっております。風呂、トイレ、洗濯、台所の4つを合計しますと、全体の94%を占めていることとなります。そして、この4つの各分野に節水型機器が普及してきているということです。

トイレについては、従来型ですと1回の使用で13リットル必要だったものが、節水型では6リットルと半分くらいの量になってきているそうです。

お風呂については、大きさによって変わってきますが、お湯を溜めずにシャワーで済ませば、1回当たり36リットルほどで済むそうです。また、最近節水型のシャワーヘッドというのがありまして、取り換えるだけで水の量を50%節水することができるようです。

台所の洗いものについてですが、普通に手洗いした場合ですと、3分間で60リットルほど使用するところ、食器洗い乾燥機では12リットルほどで済むそうです。もちろん電気代は掛かるのですが、意外と水の節約につながるようです。

洗濯機については、これまでの水槽式ですと平均122リットルほど使用していたものが、ドラム式では95リットル、ななめドラム式では72リットルと、節水型のものが普及

してきているようです。

こちらは、大口需要者の上位30件の使用水量合計の推移になります。平成8年度から令和6年度までに、両地区合計で264,638 m³、率にすると43.3%減少しています。大口需要者の使用水量が減少してきた理由としまして、地下水利用専用水道への切り替えによる減少が以前ございましたが、現在はそういった例は見受けられず、減少傾向はおさまっています。

これは、基本水量内使用者割合の推移になります。基本水量は1か月10 m³ですから、1か月の使用量が10 m³以下の人の割合が、令和6年度では46.3%にも上り、少しずつ増加する傾向にあります。

以上、「水の使用実態の変化について」の説明となります。

続きまして、「さまざまな料金体系について」ということで、料金体系にはどのようなものがあるのか等について見ていきたいと思えます。

料金には大きく分けると、一部料金制と2部料金制があります。一部料金制とは、基本料金または従量料金のいずれかの料金設定のことで、たとえば、グラフ1の場合、使用水量にかかわらず一定の料金ということです。たくさん使う人と少ししか使わない人が同じ料金では、負担の公平性からみて問題があると言えるのではないのでしょうか。一方、グラフ2の場合は、使用量に応じた料金となります。しかし、水を使用しなかった場合、料金は掛からないこととなります。水道事業は施設整備にたくさんのお金が掛かっていますから、水の使用水量にかかわらず、利用者から一定の負担を求めるべきではないのでしょうか。

そこで出てきたのが二部料金制で、基本料金と従量料金の2種類からなる料金設定です。使用水量にかかわらずお支払いいただく基本料金と、使用した水量に応じてお支払いいただく従量料金の合計額が水道料金となります。また、従量料金につきましては、グラフ3のように1m³当たりの料金が一定の場合を単一従量制と呼んでおります。一方、

グラフ4のように段階ごとに金額が増減する場合を段階別従量制と呼んでおります。グラフ4のように、使用水量が多くなるほど料金が段階的に高くなるものを逡増制従量料金、逆に使用水量が多くなるほど料金が段階的に低くなるものを逡減制従量料金と呼んでおります。

ちなみに市営水道の料金はグラフ4に該当します。全国の水道事業者で一番多く採用されており、近隣市全てグラフ4になります。

続きまして、用途別料金体系と口径別料金体系ということで、ベースとなる基本料金についての話になります。用途別料金体系とは、家庭用、営業用、公衆浴場用、工場用など使用用途に着目して、基本料金を設定するものです。市営水道がこの料金体系を採用しております。次に、口径別料金体系とは、使用者の水道メーターの口径の大きさに応じて基本料金を設定します。水道施設の規模は、平均的に使われる水の量ではなく、最も多く使われるときの水の量で決まります。大きなメーターを付けている利用者は、一度に多くの水を使うことができることから、水道施設の費用を多く負担すべきであるという考え方によるもので、県営水道をはじめ近隣市の多くの事業者で採用されています。

次に、基本水量制についてですが、基本水量制とは、基本料金に使用水量の有無にかかわらず、日常生活に必要と思われる最低水量を付与するというものです。市営水道の場合、この基本水量制を採用していますので、1か月10^m、2か月で20^mが基本料金に含まれているということになります。そもそも、なぜこの制度ができたかと言いますと、公衆衛生上の観点から、一定水量までの料金を定額にすることによって、その範囲における水の使用を促すとともに、その部分の低廉化を図るというものです。

これは、「基本水量あり」と「基本水量なし」の場合を合わせたグラフになります。基本水量制を採用することによって、2か月で20^mまでの水の使用を促すとともに、この部分の低廉化を図っているという訳です。

松戸市水道事業における水道料金の変遷についてまとめたものです。市営水道は設立

当初から用途別料金体系を採用してきました。用途別といっても一般用と公衆浴場用しかなかった訳です。また、1か月10m³までの基本水量制を当初から採用しております。

平成8年度に料金改定率27.94%の値上げを行い、現在に至っているということです。これまでは10年以内で料金改定を行ってきましたが、平成8年度からは30年間料金改定を行っていないこととなります。

次に、近隣水道事業体の料金体系について見ていきたいと思えます。

松戸市だけが用途別料金体系で、それ以外の近隣水道事業体は口径別料金体系を採用しています。基本水量につきましては、松戸市のほかに我孫子市、野田市、流山市が採用しております。また、従量料金につきましては、すべての近隣水道事業体で逡増制従量料金を採用しています。

ここからは、水道料金の比較を見ていきたいと思えます。

これは市営水道と県営水道の料金比較になります。口径13mm～口径25mmの口径が小さいものを比較したものです。青い線が市営水道で赤い線が県営水道になります。2か月で40m³使用した場合の料金を比較すると、市営水道が5,522円、県営水道の13mmが5,380円で142円県営水道の方が安くなります。県営水道の20mmは6,500円で978円県営水道の方が高くなります。県営水道の25mmは8,040円で2,518円県営水道の方が高くなります。また、市営水道の水道料金は、県営水道の口径13mmの料金とほぼ等しいと言えるのではないのでしょうか。また、基本料金の差がそのまま料金の差となって、ほぼ平行に推移しています。つまり、従量料金にあまり差はないと言えるのではないのでしょうか。ただし、市営水道は1か月10m³、2か月で20m³の基本水量制を採用しているのに対し、県営水道は基本水量制を採用していませんので、使用した水量に応じて従量料金が発生するという違いはあります。

先ほどは口径の小さいものを比較しましたが、こちらは口径40mm～口径100mmの口径の大きいものを比較したグラフになります。大口径においても小口径と同様、基

本料金の差がそのまま料金の差となってほぼ平行に推移してます。つまり、先ほどと同様に、従量料金に差はないと言えるのではないのでしょうか。

こちらは、近隣市の口径13mmと比較したものです。少量の使用水量ではそれほど差はありませんが、使用水量が多くなると、他市と比べて市営水道と県営水道の料金が高くなります。

次に口径20mmでの比較となります。市営水道の料金は1種類だけで変わらず、市営水道以外の基本料金が一段階高くなるため、少量使用では市営水道が最も安くなります。

次に口径25mmでの比較となります。市営水道の料金は1種類だけで変わらず、市営水道以外の基本料金がさらにもう一段階高くなるため、少量使用では市営水道が最も安くなります。

次に、千葉県内の水道料金の比較になります。初めに口径13mmの平均的な使用量、2か月で20m³使用した場合の料金比較になります。令和7年4月1日現在では、松戸市営水道が県内で最も安い料金となります。

次に、口径20mmの平均的な使用量、2か月で30m³使用した場合の料金比較になります。令和7年4月1日現在では、松戸市営水道が県内で最も安い料金となります。口径20mm以上においても、すべて松戸市営水道が県内で最も安い料金となります。

次に、水道料金の改定について、そのポイントとなる点について、説明いたします。

ポイント1料金体系について、現行の料金体系は用途別料金体系を採用しています。使用用途に着目して、生活用水の低廉化を図る一方、営業用などは基本料金に差を設けるもの。しかしながら、店舗兼住居の場合などは合理的な用途区分が困難であるため、設立当初から一般用と公衆浴場用の2つの区分となったものです。公衆浴場は現在1件しかないため、口径に関係なく同一料金となっています。また、県営水道と比較すると、大口径になるほど料金の格差があります。それでは、多くの事業者が採用している口径別

料金体系に見直すべきなのかという点についてです。

そこで影響するのが常盤平団地の特殊事情についてです。昭和30年始めに建てられた常盤平団地では、トイレのタンクを無くし、レバーを引くと直結給水の水圧により洗浄するフラッシュバルブを採用していることから、口径25mmの水道メーターを使用しています。

現地調査をしたところ、水栓数(蛇口の数)は6栓から7栓のところが多く、この栓数であれば、松戸市給水装置工事施行基準では通常口径20mmの水道メーターを取り付けることとなりますが、この給水用具は1回に出る水量が多いことから、松戸市給水装置工事施行基準にも日本水道協会発行の水道施設設計指針にも25mm以上の口径を使用することとしています。このような事情は、約5,000戸ある常盤平団地の約85%の戸数が該当します。

また、フラッシュバルブを採用することには、次のようなメリットが考えられます。直結給水であることから受水槽がないため、維持管理費が発生しないこと。飲用する水も衛生的であること。一度にたくさんの水を使用することができる事が挙げられます。

しかしながら、常盤平団地は普通の一般家庭であり、口径25mmの水道メーターの使用量を調べてみると、口径13mmの水道メーターとほぼ同じような使用水量であり、決して多いとは言えません。よって、この特殊事情に対する対応については、慎重に検討しなければならないと考えています。

これは口径別に、どの水量区分の使用量が多いのかを調べたもので、口径25mmの水道メーターの使用水量は、口径13mmのメーターの使用水量と似ており、決して多いとは言えません。

先ほど、市営水道と県営水道の比較をすると、大口径になるほど料金の格差がありますと説明いたしました。確かに県営水道との比較ではそのような格差があるわけですが、そこで口径40mm、50mm、75mm、100mmの大口径について、それぞれ平均的な

使用量での近隣市との料金を比較してみました。すると、市営水道の大口径の料金は近隣市と比較してずば抜けて安いわけではないと思います。確かに県営水道と比較すると格差はありますが、近隣市なみの料金を取っているのではないのでしょうか。

次に、ポイント2基本水量制についてです。基本水量制の目的ですが、一つは一定の水量を付与し、その範囲の使用を促すことによる公衆衛生の向上です。そしてもう一つが生活水の低廉化です。最低限生活に必要な水、1か月10 m³、2か月で20 m³までは従量料金はいただかないというものです。

しかしながら、水道の普及率は99.94%と概ね普及しており、公衆衛生の向上という社会的役割はほぼ達成されているのではないのでしょうか。また、使用者ニーズの変化として、基本水量内使用者が増加傾向にありますが、「節水しようという意欲が湧かない」ですとか「一律料金であることへの不公平感」といった意見がございます。また、国等の動きとして、平成8年「水道料金制度調査会答申」では「節水意識を増進させ、原価配賦面での公平性を期する観点から、今後は原則として基本水量制をとらないこととする。」平成11年「水道基本問題検討会報告」では「もともと低く設定された家庭用料金については、需要者のコスト意識が十分働いていないという指摘もある。また、基本水量制については単身者等の節水意識を阻害しているという面もあり、その意味を見直す必要がある。」令和7年「水道料金算定要領」では「基本水量を付与する料金は、料金の激変を招かないよう漸進的に解消するものとする。」となっております。

基本水量内使用者が46.3%まで増加してきていることを考えると、県営水道と同様に、使用水量に応じた料金を頂くという方が良いのではないかと考えています。

次に、ポイント3従量料金について、水道料金算定要領では、「従量料金は均一料金制が原則である」とされています。これは1m³当たりの料金は均しくあるべきとの考え方からです。しかしながら、均一料金制では最も使用水量の多いところの料金が急激に上がる事となるため、多くの事業者で逡増制が採用されています。本市においても、昭和5

1年から生活用水の低廉化のために大口需要者が小口需要者のコストの一部を負担する逡増制従量料金を採用してきました。

これは近隣水道事業体の水道料金の比較ですが、近隣水道事業体の中でも、市営水道と県営水道の逡増度が高いことが分かります。

松戸市営水道エリアは、小口径が大部分を占めるため、生活用水の低廉化を図るとはいえ、大口需要者にばかり負担を強いるのにも限界があります。また、「水の使用実態の変化」として基本水量内使用者が増え、大口使用者の使用水量が減少傾向にあります。生活用水部分の単価を低く抑えた分を大口使用者から回収しきれなくなっています。そこで、従量料金の設定には、原価主義に基づく受益者負担の原則を徹底し、少量使用者にもコストに見合った負担を求めたいところです。しかしながら、基本水量制を見直すことによって、急激な負担増とならないよう配慮する必要があることから、現行の逡増制従量料金は維持するとともに、県営水道とのバランスを考えながら従量料金の設定を行うのが良いのではないかと考えています。段階的な見直しと書かせていただきましたが、あれもこれも見直すとなると、負担感が大きくなると思います。段階的に見直すことでも良いのではないかと考えています。

水道料金の改定にかかるポイントについて説明させていただきました。これまでのことを踏まえ、次回、事務局としての案をお示しさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

私からは以上となります。

【議長】

ありがとうございました。

松戸市の水道事業についての現状と今後の展望と申しますか、将来どうしていくべきか、また、水道料金改定等についてのご説明があったかと思えます。

具体的な料金の改定等につきましては、次回以降、原案をおつくりいただけるという

ことでございますけれども、これまでのところで、何かご意見、ご質問等ございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。

【委員】

先ほどの A3用紙の2枚目の「水道施設の耐震化及び整備について」の資料の中で、常盤平浄水場の1号配水池、2号配水池を廃止する計画となっておりますが、確かに常盤平団地の人口が減ってきていますが、あそこは市営ではなく、URで建っています。松戸市が街づくりを上手く進めて人口を増やしていくうえで常盤平地区、特に常盤平団地の人口を増やしたいということであれば、3号配水池だけ更新して他の施設を無くしていくというのは、今後人口が増えたら新たに配水池を造ると考えているのでしょうか。

【事務局】

今ご質問ありました常盤平浄水場には配水池が 4 池ございます。これは給水量の増加により順次作ってきた経過から 4 つになったものです。小金地区には今運用してる配水池は 2 つしかございません。常盤平地区も将来的に個数は、2 つあれば良いと考えております。また、1 号、2 号配水池を廃止する理由の 1 つですが、今後、浄水施設を更新しようと考えております。現在使用している浄水施設は今の場所で稼働しながら更新しますので、この廃止する配水池のある場所に、新たな浄水施設を作っていく更新計画をたてています。このために必要な用地として、配水池を廃止するものです。

【議長】

ありがとうございます。

【委員】

大金平の浄水場は、令和元年度から休止とありますが今後の予定で廃止なのかどうなのか。

それが第一点、あと水道管の耐震化ですが水道管の工法で接続部分の継ぎ手の改良を絵で書いてあるのを見まして、全然従来と違うんだろーと思いました。

それと水道管自体の材質は、どういう変更があったのか。或いはトータルで、例えば従来の水道管と新しい水道管の単価の違い、何%ぐらいの材質の変更で費用が上がってる。というのをちょっと知りたいなというところでございます。

【事務局】

まず初めに大金平浄水場ですが、将来的には廃止する方向と考えています。面積的にも、ここを更新するのであれば、幸田配水場や、小金浄水場を拡充したほうが良いのではないかと考えております。

次に、今使用している水道管はダクタイル鋳鉄管というものを使っています。これは鋳鉄の中にマグネシウムを入れて、強度を高めているものなのですが、管の継ぎ手は爪が引っかかるようになっていて、可動するというか、抜けづらく、耐震性があるものです。単価につきましては、あまり変わらないのですが、物価上昇という意味では、毎年10%ぐらいずつ上がっているような状況です。単価の比較は難しいものです。

【委員】

市役所の建て替えとこの水道料金、これを含めて公共料金の値上げは、市長が変わる時じゃないとできないと私は思っていたのですが、新市長になられてもう駄目だなと思ってたところ、逆に新市長からこの話が出てきて、ここにいらっやらないのですが敬意を表してるところです。

そこでお聞きしたいのは先程、次回、改善策を提案してくるとのことですが、それは純粹に経営学的というか経済学的に考えて、政治的なことは一切考慮しないという解釈でよろしいでしょうか。

【事務局】

うちの現状をそのままズバリですので、政治的とか、そういう背景は一切抜きで、今後、これだけ不足が見込まれるが、これだけのことをやるには、これだけのお金が必要ですという、純粋な案を作って持っていきたいと思っております。よろしいでしょうか。

【委員】

わかりました。政治的なことは一切なしと、純粹に経済学的といった経営上の問題と、これでよろしいですね。

【事務局】

はい

【委員】

わかりました。

【議長】

ありがとうございます。

【委員】

県営水道との関わりがあると思うんですが、県営水道の料金改定は、もう決まるんですか、まだですか。

【事務局】

県営水道につきましては、今現在、水道事業運営審議会において、値上げについての検討をしていると聞いております。

県営水道は、具体的な数値が県知事から最初に出てました。その数値で良いかどうかを水道事業運営審議会では審議を進めていく、と伺っております。

【委員】

そしたら松戸市、市営水道の方もある程度それを勘案して決定されると思います。同じ市内で、あまり差ができては困りますし。

【事務局】

その辺につきましても、どの程度値上げするのがいいのか次回、案を出させていただきまして、いろいろご意見お聞かせいただければと考えております。

【委員】

わかりました。

【議長】

ありがとうございます。

いかがでしょう。他にご発言ございますでしょうか。

それでは、ご発言ないようですので、議題「水道料金の改定について」は以上といたします。

本日ご説明いただいた内容から、松戸市営水道の現状については、ご承知いただけたかと思えます。

つきましては、現状を鑑みた上で、問題点を打開するための改定案につきまして、次回、事務局よりお示しいただきたいと思うわけですが、それでよろしいでしょうか。

【事務局】

承知いたしました。それでは次回、本日の説明内容を踏まえた上での、案を作成して、お示しいたいと思えます。

【議長】

よろしくお願いいたします。なお、今後につきましても引き続き、この諮問事項につきましては審議を重ねていきたいと考えております。

今後の開催日程につきましては、この後事務局から連絡事項にてご説明があるかと思えますので、よろしくお願いいたします。

それでは次に、報告事項令和7年度水道事業会計予算概要につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、「令和7年度 水道事業会計予算概要」につきましてご説明をさせていただきます。A3の資料をご覧ください。

左側の一番上、「1.業務の予定量」からご説明いたします。

給水戸数につきましては、前年度より500戸の増を見込み4万1,330戸といたしました。総給水量につきましては、前年度より5万8,000 m³増の754万3,000 m³といたしました。なお、1日平均給水量は、2万665 m³となります。

次に、主要な建設改良事業の施設改良費につきましては、3.の資本的収入及び支出のところで述べさせていただきます。

続きまして「2.収益的収入及び支出」、3条予算について、説明いたします。令和7年度収入額17億1,576万3千円に対し、支出額が16億6,593万8千円で、収入・支出差し引きしますと4,982万5千円の黒字予算編成となっており、損益計算をしますと、収支均衡予算となります。

次に、「収入の主なもの」についてご説明いたします。

(1)の水道料金につきましては、前年度より1,016万3千円増の12億6,440万4千円といたしました。

(2)の他会計負担金につきましては、消火栓必要経費等、一般会計が負担すべき経費1,145万3千円を計上いたしました。

(3)の下水道受託手数料は、下水道使用料の徴収にかかる経費を、下水道担当課からいただくものです。

(4)の給水申込納付金は、過去3年間の決算状況から推計し、1億1,196万9千円を計上いたしました。

(5)の長期前受金戻入は、償却資産の取得に伴い交付された補助金や他会計負担金を、「長期前受金」として負債に計上した上で、減価償却の割合に応じ、順次収益化していくものでございます。

次に、「支出の主なもの」についてご説明いたします。

(1)の職員給与費につきましては、給与制度改革を見込み、前年度と比較しますと、1,287万1千円増の1億6,629万2千円といたしました。

(2)の委託料につきましては、検定満期量水器の交換個数の増等を見込んだ結果、前年度より1,952万1千円増の3億1,073万4千円を計上いたしました。

(3)の修繕費につきましては、電気・機械設備、漏水修理及び量水器等に係る修繕費を計上しております。

(4)の動力費につきましては、令和6年度の電力量実績と政府の電気料金への補助動向を加味し、前年度よりも1,247万2千円増の8,304万円を計上しております。

(5)の受水費は、北千葉広域水道企業団から購入する水の料金でこちらも業務予定量に基づき計上したものでございます。

(6)の減価償却費は、施設改良工事や配水管の更新等、償却資産の取得により発生する減価償却額を計上したものでございます。

(7)の資産減耗費につきましては、固定資産の廃棄に伴う除却費を計上しております。

(8)の企業債支払利息は、過去に借り入れた企業債の利息に相当する額を計上したものです。

続きまして、右側の「3. 資本的収入及び支出」、4条予算についてご説明いたします。

令和7年度収入額1,042万7千円に対し、支出額は8億1,232万1千円となり、収支不足額8億189万4千円につきましては、内部留保資金で補てんするものでございます。

次に、「収入の主なもの」についてご説明いたします。

(2)の水源費負担金は、一定規模の計画水量を超える建築物の建築等を行う者に納付していただくものです。

(3)の他会計負担金につきましては、一般会計が負担すべき消火栓設置経費を計上したものであり、前年度より703万5千円減の492万7千円を計上いたしました。

次に、「支出の主なもの」についてご説明いたします。

(1)の施設改良費のうち、配水管工事他設計委託料については2件で2,000万円、配水管布設替等工事については5件で4億3,580万円を計上いたしました。

また、その他施設改良工事として、井戸の改修工事1件、浄・配水場における設備更新工事4件を計画しており、合計1億1,560万円を計上いたしました。

(2)の企業債償還元金は、建設改良のため、過去に借入れた企業債の償還元金です。

次に、「4.債務負担行為」でございます。松戸市浄配水場運転管理業務委託契約について、期間を令和7年度から令和12年度まで、限度額を5億8,644万5千円として設定し、常盤平浄水場他遠方監視装置更新工事については、期間を令和7年度から令和8年度まで、限度額を9,394万円として設定するものでございます。

最後に、「4.水道事業会計予算額」につきましては、3条予算及び4条予算の支出額を合計して比較したもので、令和7年度は24億7,825万9千円で、前年度と比較して6,123万2千円、率にして2.5%の増加となっております。

以上、簡単ではございますが、「令和7年度 水道事業会計予算概要」についての説明とさせていただきます。

【議長】

ありがとうございました。

それでは、本件につきまして、何かご意見ご質問等がございましたらご発言をお願いいたします。

私からなんですが、資本的収入及び支出の4番目の債務負担行為に関しまして、限度額という形で金額が設定されているのは、どういうことでしょうか。

【事務局】

債務負担行為というのは、年度をまたいで契約をする場合に行うもので、その内容と金額を予め定めて置き、その金額を限度額として設定することで、将来の負担がどのく

らいかを定めるものです。

【議長】

ありがとうございます。ということはこれまだ契約自体が、具体的な金額が定まった形で結ばれているわけではないということですか。

【事務局】

はい。年度当初の時点では、契約行為が進んでおりませんので、期間中の事業費限度額をお示ししている状態です。

【議長】

承知いたしました。ありがとうございます。他に何かご発言はございますでしょうか。

【委員】

勘違いしていると困るので確認させていただきますが、戸数は増えているのに対して給水量が減っているというような気がするんですが。給水量は増えているのですか。

戸数が増えたから、少しプラスするのではなくて、今までに習って少し減らして、計上しても良いのではないかと思うのですが。

【事務局】

只今ご指摘いただいた通り、これまで給水戸数は微増傾向で増えてきました。給水人口についても、大体同じような微増傾向で続いてきました。

一方、給水量は逆に少しずつ減ってきてるという状況と、先ほどご説明させていただいたのですが、令和6年度につきましては、水の有収水量、実際に皆さんが使った水道の量ですが、若干増えました。これまでの傾向として右肩下がりで減少傾向にあるのですが、例えば猛暑やコロナ等の感染症といった理由で伸びる時もあります。

コロナで一時的に増えましたけれども、その後減少し、猛暑で増加するも次の年は減少したりということがございます。

今回の令和6年度につきましては、おそらく大口の利用者がいくつか出てきました。

例えば常盤平地区ですと駅前にスーパーができたり、小金地区だと新松戸に病院があるのですが、その病院が新しい棟を建てました。そういう大口が出てきたというのも1つの要因だと思います。

そのような理由から前年度と比較して若干増えました。

このような影響も考慮しまして、次年度、期待を込めて多少上向きにさせていただいたというものです。

今現在、4、5、6と3ヶ月経ちましたが、小金地区は、前年度とほぼ同じような感じで若干少ないぐらいです。

常盤平地区につきましては、去年の中ごろから少し給水量が落ちまして、おそらく五香十字路を松戸方面に行くと右側に幾つか大きな飲食店が無くなりまして、そのあたりから給水量が落ち始め、その後、最近になってそこに新しいお店ができたことで、6月の給水量がまた少し戻ってきました。それが原因なのかと思っております。

令和7年度については、多少そういったところを少し加味して、予算を立てさせていただいたということでございます。

【議長】

ありがとうございます。

【委員】

前回、苦言というか言ったのですが、これ令和7年と令和6年の予算と予算の比較になっています。今言ったことを含めてですね6年度の予算と6年度の実績を比較して、そのずれがどうしたのかということ把握しないと予算と予算の比較になってるので、そのことをいずれ説明していただけますか。前にも言った記憶があるのですが。

【事務局】

はい、6年度決算の準備が整いましたら、予算と決算の比較をご用意させていただきます。ありがとうございます。

【議長】

それでは、そのようによろしく願いいたします。

それでは他にご発言はございますでしょうか。

ないようですので、以上で報告事項令和7年度水道事業会計予算概要については、終了といたします。

それでは次に、事務局より連絡事項等ございましたらお願いいたします。

【事務局】

市長からの諮問事項につきまして、今後審議を重ねていく必要がございます。期間が短く大変恐縮ですが、次回の審議会は8月13日水曜日の開催を予定しております。

場所や時間は本日と同様に、市民サロンにて14時開始とさせていただきます。

また、以後の予定といたしましては、先日、皆様に確認を取らせていただいた内容を基に「今後の開催予定一覧」を作成いたしましたので、過密なスケジュールで申し訳ありませんが、ご出席の程、宜しく願い致します。

審議会条例では、委員の過半数の出席がなければ開催できないとなっておりますので、ご出席をお願いしたいと思います。

事務局からは以上でございます。

【議長】

ご発言はございますでしょうか。

【委員】

6回の予定が8月の22日と9月5日が無くなりましたが、これはどういう意味でしょうか。

【事務局】

先ほどの説明で過半数ということで8名の中で5名以上が集まらないと開催ができないとなっておりますので、5名以上が集まる日程ということで、調整させていただきます。

ました。

【委員】

審議を開催するうえで、これで大丈夫なんですか。

【事務局】

必要であれば、日程を追加する予定もございます。その時はまた調整して確認をさせていただいた上でということになります。

【委員】

かつては、審議会を夜にやっていた時もありました。昼間だと参加できないけど、夜なら参加できるということもあると思います。18時から20時でやっていた時期もありました。

そのころは傍聴者も多く、議員の先生の方も来られたときもあった。やはり時間も考えたほうがいいのではないかと思います。

【事務局】

確かに以前、夜間に開催したこともあったかと思います。

今回どうしても来年の4月1日に値上げということを考えますと、逆算していくと市民への周知の期間等を考えていくと、早めに進めていかなければならないことから、現在計画してるのが会場の関係で、この4日間ということ。今お話がありました、夜間からといったご希望があれば持ち帰って検討をさせていただきたいと思います。

【議長】

他にありますか。

【委員】

年度の途中からでは、まずいのかどうか、わからないんですけど。

あくまでも4月1日から料金見直しということで、結構タイトな予定でとおっしゃっていましたが、これは3ヶ月先にずれ込んだりといったことでは、まずいのですか。

こういう公共の予算で、必ずしも年度始めからスタートしなければならないのかどうか、わからないので教えてください。

【事務局】

必ずしも年度始めからスタートしなければいけないというわけではなく、やるのであれば、県営水道が4月1日の早い段階で料金改定を予定しているということを知っています。

市営水道としても、令和8年度から、赤字に転じる見込みということもございますので、できましたら、そのあたりで料金改定ができたというあくまで希望ですけど、その方向で、できるのであれば、やらせていただきたいという想いはございます。

ただ、必ずしもそうでなければいけないのかと言われると、例えばそれが3ヶ月、6ヶ月延びたとしても、それはそれで仕方がないと思います。

【委員】

今後の開催予定について、皆さんも他の予定もありますことから、ころころ変わると困りますので、今後きちんと出していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

日程については、皆様の出欠の確認をしてから、スケジュールの調整をさせていただきましたが、その2日間については、中止とさせていただきました。

今後は、私どもといたしましてもできれば、この日程で進めていきたいという思いはあるのですが先ほど、夜間の開催という話もございましたので、場所等をどうするかなど考えなければいけません。一先ず、この日程で進めさせていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【議長】

どうしても4月1日から料金改定ということを前提に考えていくと、タイトなスケジュールになるというのは理解できるころではあるのですが、市民の皆さんの生活に関わ

ることですので、丁寧に審議できるように、事務局の方としてもご対応いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

では、ただいまの連絡事項につきましては以上のような形で、ご了解願います。

それでは以上をもちまして、令和7年度第1回松戸市水道事業運営審議会を閉会いたします。

委員の皆様には、長時間にわたり、誠にありがとうございました。